

2021年総会 議案書

2021年5月8日（土）

議 題

1. 2020年度事業報告
2. 2020年度決算報告
3. 2021年度事業計画案
4. 2021年度予算案

日 本 出 版 学 会

<http://www.shuppan.jp> e-mail : info@shuppan.jp

〒166-0015 東京都杉並区成田東 4-35-23

TEL : 03-3313-7347 FAX : 03-3313-7348

2020 年度事業報告 (2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

1. 概況

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、創立から 50 年をむかえ、新たな時代への歩みを進めている。これまで設立の理念と志を尊重し、円滑な研究者の交流や情報交換をおこない、研究成果の発表のために、学会誌や会報の発行、研究発表会や各種の部会活動、そして国際出版研究フォーラム (IFPS : The International Forum on Publishing Studies) への参加を継続的におこなってきた。

これらが可能となったのは、何よりも学会を構成する会員の方々の努力と、経済的な支援をはじめ様々な便宜をはかっていただいている賛助会員の方々のご協力の賜物であり、ここに改めて深甚なる感謝の意を表したい。

2020 年度における日本出版学会の活動は、それまでの研究や人的交流の蓄積に基づいて着実に進められ、出版研究に対する関心は一層高められた。

春秋合同研究発表会は、2020 年 9 月 12 日に Zoom によるオンラインで開催した。参加者は 89 名であり、6 名の研究発表、2 つのワークショップ、日本出版学会賞受賞記念講演をおこなった。

コロナ禍の対応に当初手間取った。研究会等はオンライン開催しかできず、結果として大幅に回数を減らすこととなったしまった。しかし二つの会長プロジェクト等により学会全体としては、従前程度の活動を維持できているといえる。

2. 会員数

正会員		294名
賛助会員	法人	36社
名誉会員		2名

(2021 年 3 月末日現在)

3. 総会

2020 年総会は、2020 年 5 月 24 日、Zoom によるオンラインで 95 名 (委任状を含む) の会員が出席、2019 年度事業報告、同決算、同特別会計決算、2020 年度事業計画案、同予算案、同特別会計予算案をそれぞれ審議・可決した。

4. 理事会

2020 年度の会務をおこなうため、2020 年総会から本総会に至るまでの間、理事会を下記のとおり開催した。

第 1 回： 2020 年 5 月 24 日

第 2 回： 2021 年 3 月 1 日

また、電磁的理事会を下記のとおり開催した。

2020 年 6 月 8 日

2020 年 7 月 6 日

2020 年 10 月 26 日

2020 年 11 月 7 日

2020 年 11 月 30 日

5. 調査研究委員会

調査研究委員会は、主として各部会間の連絡調整にあたった。2020年度はコロナ禍によって対面方式での部会の開催が困難な状況であったため、主として次年度に向けた研究課題の検討等をおこなった。一部の部会ではオンラインでの部会開催を実施し、積極的な議論をおこなうことができた。各部会の活動状況は次のとおりである。

(1) 出版史研究部会

3月4日(オンライン)「出版史から見た明治時代の「誌友交際」」長尾宗典

(2) 出版デジタル研究部会

3月26日(オンライン)「電子出版ビジネスの現状と今後の展望——出版社における電子書籍・デジタル雑誌ビジネス実態調査報告」植村八潮・星野渉・矢口博之・田中敏隆(主催:電子出版制作・流通協議会)

(3) 翻訳出版研究部会

3月5日(オンライン)「コロナ禍における翻訳出版——現在そしてこれから(2)編集者の立場から」永嶋俊一郎

(4) MIE 研究部会

10月22日(オンライン)「中学校における雑誌編集教育の実践報告」植田恭子・渡辺光輝

12月3日(オンライン)「大宅壮一文庫の雑誌編集教育の実践報告」土屋潤子

(5) 学術出版研究部会

(6) 雑誌研究部会

(7) 出版アクセシビリティ研究部会

(8) 出版技術研究部会

(9) 出版教育研究部会

(10) 出版産業研究部会

(11) 出版編集研究部会

(12) 出版法制研究部会

(13) 関西部会

6. プログラム委員会

プログラム委員長より、開催予定であった東京経済大学での開催ができなくなった、との報告を受け、オンライン開催へ向けた準備をおこなった。

春秋合同研究発表会(2020年9月12日、オンライン)

〈研究発表〉

1. 「公共図書館における、電子図書館サービス導入の実態と課題、新型コロナウイルス感染問題による図書館の意識の変化について」長谷川智信

2. 「日本における電子書籍化の現状(2020年版)——国立国会図書館所蔵資料の電子化率調査」鷹野凌・堀正岳

3. 「江戸の実用書「小謡本」の編集——蔦屋・鱗形屋の方法」原八千代

4. 「出版文献データベース考察——古山悟由編「90年代・出版関係雑誌文献目録(稿)」を利用して」伊藤民雄

5. 「「ライトノベルの一流流」としてのソノラマ文庫——メディア史的アプローチからの再検証」山中智省

6. 「ヘイトスピーチ解消法の問題点——法の下の平等の観点から」田上雄大

〈ワークショップ〉

1. 「コロナ禍における翻訳出版 現在そしてこれから」安部由紀子・山本知子・井口富美子・梶原治樹・山崎隆広

2. 「電子書籍におけるレイアウトと情報化——アクセシビリティを視座として」小林潤平・野口武悟・矢口博之・植村要

〈日本出版学会賞受賞記念講演〉

山森宙史

受賞作『「コミックス」のメディア史——モノとしての戦後マンガとその行方』(青弓社

刊)

7. 日本出版学会賞

(1) 受賞図書・論文

第41回日本出版学会賞は、下記のとおりである。

【日本出版学会賞】

稲岡勝『明治出版史上の金港堂——社史のない出版社「史」の試み』(皓星社)

大和博幸『江戸期の広域出版流通』(新典社)

【日本出版学会賞奨励賞】

山森宙史『「コミックス」のメディア史——モノとしての戦後マンガとその行方』(青弓社)

巽由樹子『ツァーリと大衆——近代ロシアの読書の社会史』(東京大学出版会)

【日本出版学会賞特別賞】

金沢文圃閣(出版活動全般および「文献継承」の発行)

(2) 日本出版学会賞審査委員会

日本出版学会賞審査委員会は、第42回日本出版学会賞の審査にあたった。

(3) 受賞記念講演会

9月12日(オンライン)山森宙史(受賞作『「コミックス」のメディア史——モノとしての戦後マンガとその行方』(青弓社刊))

8. 『出版研究』編集委員会

『出版研究』編集委員会は、学会誌『出版研究』の企画・編集にあたり、第50号(A5判, 148頁, 600部, 定価: 本体2,600円+税)を2020年4月に発行し、引き続き第51号(A5判, 220頁, 600部, 定価: 本体2,600円+税)の編集をおこなった。

9. 広報委員会

広報委員会は、学会活動に関する対外的広報活動を随時おこなうとともに、学会案内の作成、および『日本出版学会会報』の企画・編集にあたり、次の各号を発行した。

第149号=16頁, 2020年4月20日(700部)

また、公式ウェブサイトの充実をはかり、情報発信をおこなった。

10. 関西委員会

関西委員会は、関西部会の運営に協力した。

11. 国際交流委員会

国際交流委員会は、2020年11月6日にオンラインで開かれた第19回国際出版研究フォーラム(IFPS)(韓国出版学会主催)の企画・運営をおこなった。

第19回国際出版研究フォーラム

テーマ: モバイル時代の出版革命

〈第1セッション: モバイル・コンテンツの生産〉

1. 「MZ世帯のためのモバイル出版コンテンツ生産戦略」李抒炫・李知樺

2. 「コンテンツとしてのジャーナリズム——技術革新と生産者の倫理学」塚本晴二朗

3. 「メディア融合背景からモバイル・コンテンツの生産メカニズムに関する研究——COL事例を中心として」童之磊

〈第2セッション: モバイル・コンテンツの販売とマーケティング〉

1. 「図書発見とソーシャルメディア競争に関する研究——適所分析を中心として」金東赫

2. 「COVID-19の影響拡大における出版・電子

書籍の現状と課題」植村八潮

3. 「モバイル時代に専門出版デジタル製品構築と市場戦略の協同発展」唐亮・李鋒

〈第3セッション：モバイル・コンテンツの読書〉

1. 「デジタル時代の読書変化と活用方案」

李銀浩

2. 「デジタル時代の読書とは」山崎隆広

3. 「ポストコロナ時代の出版発展戦略——新しい日韓中の出版文化協力方式模索」

劉文昕

〈第4セッション：モバイル・コンテンツの出版政策〉

1. 「モバイル・コンテンツと出版ビジネスモデル研究」崔俊蘭

2. 「海賊版電子書籍に対する著作権法改正」

宮下義樹

3. 「ポストコロナ時代、編集長の出版戦略」

杜賢

12. 役員（2022年度総会まで）

会長＝塚本晴二郎

副会長＝茨木正治 富川淳子 中西秀彦

理事＝飛鳥勝幸 阿部圭介 安部由紀子

石川徳幸 和泉澤衛 磯部敦 伊藤民雄

植村要 梶原治樹（事務局長） 駒橋恵子

清水一彦 新藤透 鈴木親彦 玉川博章

長尾宗典 中川裕美 中村健（事務局次長）

橋元博樹 秦洋二 村木美紀 矢口博之

山崎隆広 山中智省 山中秀夫

監事＝植村八潮 星野渉

13. 委員会メンバー

（◎＝委員長・部会長，○＝副委員長）

（1）総務委員会＝◎富川淳子 阿部圭介
石川徳幸 茨木正治 梶原治樹 塚本晴二郎

中西秀彦 中村健 山崎隆広

（2）調査研究委員会＝◎石川徳幸

学術出版研究部会＝◎橋元博樹 山崎隆広
吉田拓歩

雑誌研究部会＝◎山中智省 玉川博章

石川徳幸 田島悠来

出版アクセシビリティ研究部会＝◎野口武悟
植村要（担当理事）

出版技術研究部会＝◎矢口博之

出版教育研究部会＝◎伊藤民雄 清水一彦

出版産業研究部会＝◎鈴木親彦 岡部友春
橋元博樹

出版史研究部会＝◎長尾宗典 柴野京子

石川徳幸

出版デジタル研究部会＝◎矢口博之

梶原治樹

出版編集研究部会＝◎飛鳥勝幸 清水一彦
吉田拓歩

出版法制研究部会＝◎和泉澤衛 阿部圭介

翻訳出版研究部会＝◎柴田耕太郎

安部由紀子（担当理事）

MIE 研究部会＝◎清水一彦 富川淳子

関西部会＝◎中村健 磯部敦 常木佳奈

中西秀彦 秦洋二 村木美紀 山中秀夫

湯浅俊彦

（3）『出版研究』編集委員会＝◎茨木正治

○山中智省 飛鳥勝幸 磯部敦 稲田隆

上田宙 玉川博章 中川裕美 山崎隆広

山森宙史 吉田拓歩

（4）広報委員会＝◎阿部圭介 石川徳幸

石沢岳彦 鈴木親彦 秦洋二

（5）関西委員会＝◎中西秀彦 磯部敦

常木佳奈 中村健 秦洋二 村木美紀

山中秀夫 湯浅俊彦

（6）国際交流委員会＝◎山崎隆広 植村八潮

（7）日本出版学会賞審査委員会＝

◎塚本晴二郎 飛鳥勝幸 植村八潮

駒橋恵子 柴野京子 新藤透 長尾宗典

中川裕美

(8) プログラム委員会=◎新藤透

○駒橋恵子 ○湯浅俊彦

(9) ウェブサイト改定委員会=◎鈴木親彦

阿部圭介 鷹野凌 山中智省 吉田拓歩

(10) 出版企画委員会=◎塚本晴二郎

磯部敦 牛口順二 大重史朗 玉川博章

中川裕美 野口武悟 平松恵一郎 堀井健司

森貴志

14. 『パブリッシング・スタディーズ入門(仮)』 プロジェクト

出版学会とは、いかなる学会なのかを明確にするための出版物を刊行しよう、というこのプロジェクトは、プロジェクトチームによるアンケート調査を経て、出版企画委員会を組織し内容を決定した。それを受けて執筆者の公募を行い、執筆者が決定した。目下全執筆者が、2021年8月末日の締め切りに向けて執筆中である。

15. 「産学連携」プロジェクト

出版学会と出版業界の新しい連携を模索するこのプロジェクトはプロジェクトチームにより、シンポジウムが企画され、出版三団体の理事長にご登壇いただくシンポジウムを春季研究発表会で開催することとなった。

日本出版学会2020年度決算報告

以下のとおり報告いたします。

会 長 塚本晴二郎
 副会長 茨木正治 富川淳子 中西秀彦
 理 事 飛鳥勝幸 阿部圭介 安部由紀子 石川徳幸 和泉澤衛 磯部敦 伊藤民雄
 植村要 梶原治樹 駒橋恵子 清水一彦 新藤透 鈴木親彦 玉川博章
 長尾宗典 中川裕美 中村健 橋元博樹 秦洋二 村木美紀 矢口博之
 山崎隆広 山中智省 山中秀夫

監査は結果公正なものと認めます。

監 事 植村八潮  星野渉 

【 貸 借 対 照 表 】 2021年3月末日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
現 金	103,134	
振替預金	557,184	東京貯金局
普通預金①	2,127,504	三井住友銀行飯田橋支店
普通預金②	11,910	三菱UFJ銀行市ヶ谷支店
普通預金③	1,606,980	三菱UFJ銀行神保町支店
普通預金④	1,306,619	みずほ銀行京橋支店
合 計	5,713,331	
負債・資本の部		
科 目	金 額	備 考
前 受 金	0	
未 払 金	0	
前期繰越金	4,956,090	
当期正味財産増加額	757,241	
合 計	5,713,331	

日本出版学会2020年度決算報告

【 収 支 計 算 書 】

自2020年4月1日～至2021年3月31日

収 入 の 部				
科 目	2019年度決算	2020年度予算	2020年度決算	対前年比
入会金	60,000	80,000	80,000	33.33%
正会員会費	2,305,000	2,400,000	2,340,000	1.52%
過年度分会費	290,000	200,000	350,000	20.69%
賛助会員会費	1,440,000	1,500,000	1,430,000	-0.69%
研究会収入	139,000	100,000	0	-100.00%
懇親会収入	396,000	300,000	0	-100.00%
雑収入	33	4,000	44	33.33%
図書代金	280,247	160,000	0	-100.00%
寄附金	30,000	30,000	20,000	-33.33%
当期収入合計 (A)	4,940,280	4,774,000	4,220,044	-14.58%
前期繰越収支差額	4,817,940	4,956,090	4,956,090	2.87%
収入合計 (B)	9,758,220	9,730,090	9,176,134	-5.97%
支 出 の 部				
科 目	2019年度決算	2020年度予算	2020年度決算	対前年比
出版研究経費	721,063	600,000	492,228	-31.74%
会報製作費	191,086	200,000	77,770	-59.30%
ウェブ等広報費	139,899	142,000	141,880	1.42%
研究会費	467,988	250,000	25,940	-94.46%
懇親会費	342,550	300,000	0	-100.00%
出版学会賞経費	166,064	120,000	172,665	3.97%
会議費 (理事会・総務委)	0	0	0	—
通信費	314,968	300,000	256,800	-18.47%
印刷費	18,030	25,000	22,400	24.24%
旅費交通費	186,180	200,000	0	-100.00%
業務委託料	2,223,600	2,244,000	2,244,000	0.92%
備品費	0	0	0	—
事務用消耗品費	24,611	30,000	21,255	-13.64%
雑費	6,091	10,000	7,865	29.12%
予備費	0	0	0	—
当期支出合計 (C)	4,802,130	4,421,000	3,462,803	-27.89%
当期収支差異 (A)-(C)	138,150	353,000	757,241	—
次期繰越収支差額 (B)-(C)	4,956,090	5,309,090	5,713,331	15.28%

日本出版学会2020年度特別会計

【 収 支 計 算 書 】

自2020年4月1日～至2021年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2019年度決算	2020年度予算	2020年度決算
前期繰越金	4,684,543	4,346,317	4,346,317
周年記念事業寄付金（個人）	0	0	0
周年記念事業寄付金（法人）	0	0	0
東京経済大学補助金	0	0	0
大会収入	0	0	0
雑収入	30	0	20
合 計	4,684,573	4,346,317	4,346,337
支 出 の 部			
科 目	2019年度決算	2020年度予算	2020年度決算
周年記念事業経費	—	0	—
大会支出	0	—	0
印刷費	0	—	0
通信費	0	—	0
事務費	0	—	0
雑費	27,000	0	0
座談会費用	0	0	0
出版研究電子化費用	311,256	1,900,000	1,913,560
予備費	0	0	0
支出合計	338,256	1,900,000	1,913,560
繰 越 金	4,346,317	2,446,317	2,432,777

【 資 産 状 況 一 覧 】

2021年3月31日現在

資 産 の 部		
科 目	金 額	備 考
普通預金①	1,805,820	三井住友銀行飯田橋支店
未入金	0	
小口現金	626,957	
合 計	2,432,777	

1969 年 3 月に設立された日本出版学会は、2019 年 3 月に創立 50 周年を迎え、学術研究団体として、確固たる地位を築きつつある。デジタル・ネットワーク社会における出版メディアのあり方は劇的に変化し、出版研究の重要性はますます高まっている。出版研究が新たな段階に入っていると捉え、出版および出版学の射程を広げるとともに、原点を確認する研究活動を進める。

そこで当学会は、従来の出版研究の諸分野の活動を以下のように継続・拡大するとともに、次の世代に対する責任を果たしたいと考えている。

1. 研究活動の推進と充実

① 研究部会活動の推進

当学会の活動がその規模に比較して活発である背景には、多様な部会活動があるといえよう。今後とも会員の期待に応えるべく、さらに積極的な部会活動がおこなわれるように努力したい。

② 研究発表会の拡充

春季および秋季研究発表会において積極的な発表が続いており、活発な議論がおこなわれている。また時代の研究課題に応えるシンポジウム、ワークショップの企画や、基調講演もあり、毎回、多数の参加者を数えている。今後とも、学術的水準向上の観点から、研究発表会をより充実させるため、会員の積極的な発表や会員間の討論の場を増やしていきたい。

③ 学会誌の発行

『出版研究』第 52 号の企画・編集を進め、年度内の発行を予定する。

2. 研究活動のネットワークの拡大

1984 年 10 月に最初の国際出版研究フォーラム(IFPS)が韓国ソウルで開催された。以来、36 年あまりの間に我々は様々な交流を通じて、より内容を深めた議論をおこなう段階に到達している。IFPS の継続運営や海外在住会員との恒常的な連携、また部会活動を通じた国内の研究者間のネットワークも拡大している。

3. 会勢と財政の充実

当学会は当初 66 名の発起人によって設立されたが、現在、会員数は約 340 に至った。しかし、学術研究団体としては決して多数ではなく、その社会的使命を果たすためには、より多くの会員を擁することが必要と思われる。日常の部会活動や各種の刊行物を通じて、会員の獲得、会勢の充実を期したいと考えている。

また、学会財政は、長期にわたって出版産業の経済活動が停滞していることも要因となって、厳しい状況にある。ここ数年の経費節減の取り組みによって、現在は均衡を保っているものの、さらなる経費節減を進めている。

4. 広報活動の充実

①『日本出版学会会報』

本年においては2号の発行を予定し、内容の充実を図る。

②ウェブサイトの拡充

ウェブサイトの情報発信力を高め、会員間の情報交換を密にする。また会報との連動によって学会の公知化に資することとする。特に本年度は、時代に即した情報発信をおこなうべく、ウェブサイトのリニューアルをおこなう。

5. 日本出版学会賞の審査・授与

学会創立10周年を記念して創設された日本出版学会賞については、その後、毎年継続されており、本年も審査・授与をおこなう。

また、『出版研究』掲載論文を対象に2016年度に新設した「清水英夫賞（日本出版学会優秀論文賞）」は、隔年審査をしており、今回は2022年度に審査・授与をおこなう。

6. 『出版研究』『会報』の電子化

創立50周年事業として開始した『出版研究』及び『日本出版学会会報』の電子化を継続する。

7. 『パブリッシング・スタディーズ入門（仮）』プロジェクト

2021年8月末日の締め切りに向けて全執筆者が執筆中である。今後は2022年2月刊

行に向けて、編集作業へと移っていく。

8. 「産学連携」プロジェクト

春季研究発表会でのシンポジウムの結果を踏まえて、具体的な「産学連携」のイベントを企画する。まずは年度内の研究会か、2022年度の春季研究発表会において、「産学連携」に相応しいイベントを開催し、そうしたイベントを継続し発展させる。

9. 出版学研究隣接学会・団体等への研究・活動協力

NPO 法人本の学校主催によるシンポジウムへの協力など、隣接する学会・団体との交流を促進し、相互に研究活動を協力する。

日本出版学会2021年度予算案

【 収 支 計 算 書 】

自2021年4月1日～至2022年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2020年度決算	2021年度予算	備 考
入会金	80,000	80,000	
正会員会費	2,340,000	2,300,000	
過年度分会費	350,000	250,000	
賛助会員会費	1,430,000	1,500,000	
研究会収入	0	40,000	
懇親会収入	0	150,000	
雑収入	44	40	
図書代金	0	140,000	
寄附金	20,000	30,000	
当期収入合計 (A)	4,220,044	4,490,040	
前期繰越収支差額	4,956,090	5,713,331	
収入合計 (B)	9,176,134	10,203,371	
支 出 の 部			
科 目	2020年度決算	2021年度予算	備 考
出版研究経費	492,228	700,000	
会報製作費	77,770	230,000	
ウェブ等広報費	141,880	840,000	
研究会費	25,940	100,000	
懇親会費	0	150,000	
出版学会賞経費	172,665	150,000	
会議費 (理事会・総務委)	0	0	
通信費	256,800	300,000	
印刷費	22,400	25,000	
旅費交通費	0	100,000	
業務委託料	2,244,000	2,244,000	
備品費	0	0	
事務用消耗品費	21,255	58,000	
雑費	7,865	8,000	
予備費	0	0	
当期支出合計 (C)	3,462,803	4,905,000	
当期収支差異 (A)-(C)	757,241	-414,960	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	5,713,331	5,298,371	

日本出版学会2021年度特別会計予算案

【 収 支 計 算 書 】

自2021年4月1日～至2022年3月31日

収 入 の 部			
科 目	2020年度決算	2021年度予算	備 考
前期繰越金	4,346,317	2,432,777	
周年記念事業寄付金（個人）	0	0	
周年記念事業寄付金（法人）	0	0	
東京経済大学補助金	0	0	
大会収入	0	0	
雑収入	20	20	
合 計	4,346,337	2,432,797	

支 出 の 部			
科 目	2020年度決算	2021年度予算	備 考
周年記念事業経費	—	0	
大会支出	0	—	
印刷費	0	—	
通信費	0	—	
事務費	0	—	
雑費	0	0	
出版研究電子化費用	1,913,560	0	
予備費	0	0	
支 出 合 計	1,913,560	0	
繰 越 金	2,432,777	2,432,797	